

Take action!

きっかけをつかんで、未来へと一歩踏み出そう!

このコーナーは、「やりたいことがみつからない」と悩んでいる高校生へのエール。
ふとしたきっかけから、自分のやりたいこと=未来をみつけた高校生たちのストーリーをご紹介します。

Action 04

松野里咲さん 愛知・中京大学附属中京高校3年

先生という夢が明確になったのは、チアのおかげ

高校入学前に見た チアリーディングが衝撃的でした

松野里咲さんは、スポーツの応援として行われるチアリーディングに出会ったことで、将来の夢が決まった。中学3年の時、中京高校のオープンスクールで、チアリーディングの演技を見て衝撃を受け、「私もやりたい!」と、中京高校への進学を決意。入学後は晴れてチア部に入部した。

けれど、そこに待っていたのは演技中の華やかさとは真逆の地味な筋トレ。「1年生のころはほんと、筋トレばかりでしたね。最初のころは先輩に怒られることも多かったし、女子ばかりなのでグループ内でぶつかることもあったし」。

それが日々練習を積み重ね、また数々の大会やイベントに参加し、話し合いを重ねる中で、「チームのみんなは家族みたい」という信頼関係を築いた。そして今やチアリーディングの全国大会で準優勝を果たすほどの実力を誇る。

「私もこんなコーチになりたい!」 チア部のコーチへのあこがれ

チームメイト同様、松野さんのチア部での3年間に欠かせない存在が、コーチの山口桃先生だ。その魅力を「ブレないところ」と松野さんは表現する。自分の意見をしっかりと持ち、人の意見に流されない。「でも、独りよがりではなく、きちんとまわりを見ています。それと、ちゃんと先のことを考えている。それがすごいなと思いますね」。厳しいけれど愛情がある。生徒の力を伸ばしてくれる。「山口先生みたいになりたい」と思った時、松野さんの進路が定まった。

大学進学後もチアを続け 人間として成長したい

そのためには「スポーツを学べて、なおかつ教員免許が取得できる大学へ進学したい」と考え、中京大学のスポーツ科学部スポーツ教育学科を志望。チア

部引退後の現在は、受験勉強を頑張っている。

そんな松野さんにどんな教師、どんなコーチになりたいかを尋ねると、こんな言葉が返ってきた。「こんな技術を教えた、大会でいい結果を出せた、というのも大事だけれど、人間としての成長が目標ですね」。そして大学進学後もチアリーディングを続け、さらに成長していきたいと話してくれた。



中京高校チア部のチーム名は「SPIRITS」。明るい笑顔とチームワークが魅力だ。写真は3年生17名



大学生で経営者の鶴田浩之さんという先輩や、やりたいことをみつけた高校生の話を読んでみたい人は、こちらをチェック!

<http://shingakunet.com/rnet/action>

